

1. 公益目的事業の実施内容

1-1 支援プロジェクト

1-1(1)教育支援

・学校建設支援

本年度は実施していない。

・奨学金支援（川内）

◆連携団体：KKEV（教育支援を行う現地 NGO）

◆対象地域：カンボジア・センソック地域（プノンペン市郊外）

◆支援額：約 65 万円（2022 年 12 月送金）

（中学・高校生・大学生・職業訓練校生：14 名分）

センソック地域（スラム）に暮らす成績優秀だが経済的に学校に通うことが困難な状況にある生徒の学費や教科書、制服、交通費等を支援。2022 年度は 14 名を支援（9 名はスカラーペアレント制度、2 名は大学生奨学金支援制度、残り 3 名はセカンドハンド・ユースが支援）した。

1-1(2)自立支援

・女性の自立支援（川内）

◆連携団体：ラチャナ・ハンディクラフト・バタンバン（現地 NGO）

◆対象地域：カンボジア・バタンバン州

◆支援額：約 20 万円（2023 年 3 月送金）

現地の女性たちが製作した布製品を適正な価格で購入し日本で販売することにより、生産者の生活を支え、経済的自立への支援、フェアトレード商品の普及を図っている。商品の販売は、チャリティショップ内だけでなく、イベントへの出品を通して広くフェアトレード商品を知ってもらう場を提供している。

また、県内外問わず、お店を経営されている方々等のご協力を得て、店内に商品を置かせて頂くことで、より多くの方々に商品を手にとってもらえる機会となっている。更に認知度を上げるため、ネット販売も行っている。

2013 年度より、高松市にある保育園からの委託で保育園制服の製作依頼も行っている。

《委託販売先》 順不同・敬称略

和 Cafe ぐう（香川郡直島町）、カフェレスト オリーブ（三豊市）

三宅産業株式会社（高松市）、カンボジアマーケット（坂出市）

セカンドハンド北海道



・フォスターペアレント制度（川内）

◆連携団体：ホームランド（現地 NGO）

◆対象地域：カンボジア・バタンバン州

◆支援額：約 125 万円（2022 年 8 月約 70 万円、2023 年 2 月約 55 万円送金）

NGO ホームランドは、地域の貧困家庭の子ども達を対象に、食事を始めとする生活費、教育費、子ども達の親の支援、地域住民への HIV 教育などのプロジェクトなどを実施し支援している。日本の支援者が貧困家庭の子ども達の「里親」となり、手紙のやり取りをして繋がる「フォスターペアレント制度」を通じて NGO ホームランドへの支援を行った。2022 年度は、23 名の里親が 34 名の子ども達を支援した。

・貧困家庭への自立支援（川内）

◆連携団体：ホームランド（現地 NGO）、KKEV（現地 NGO）

◆対象地域：カンボジア・バタンバン州、カンボジア・センソック地域（ブノンペン市郊外）

◆支援額：

ホームランドへ約 40 万円（2022 年 8 月約 20 万円、2023 年 2 月約 20 万円送金）

KKEV へ約 4 万円（2022 年 12 月送金）

カンボジアの貧困家庭の子どもやストリートチルドレン、DV を受けている子ども等、支援が必要な子どもたちを保護し、施設、あるいは親や親戚もしくは現地の里親のもとで生活できるようにサポートしている 2 つの現地 NGO を支援した。ホームランドでは、子ども達の家庭訪問を実施し、生活状況の把握や就学支援を行うための経費に充てられた。また、KKEV では、小学生への就学支援を行う「スタディーサポートペアレント制度」で 3 名の支援者が 3 名の支援をしている。



◆連携団体：OAU（現地 NGO：Orphan Affairs Unit）（三木）

◆対象地域：マラウイ

◆支援額：約 30 万円

OAU は 2018 年より活動を開始し、ECD（幼稚園）、OVC（青少年活動）、貧困家庭への食糧支援等を行っている。最貧国のひとつであるマラウイ共和国のマルンジェ地域で活動する OAU を通し、貧困家庭の子ども達への支援を行った。

・保健衛生指導者育成プロジェクト

◆連携団体：ホームランド（現地 NGO）

◆対象地域：カンボジア・バタンバン州

現地 NGO ホームランドのケースワーカーが周辺の貧困家庭を定期的に訪問し、子どもの就学を支援するとともに、保健衛生状況の観察、必要な助言を行った。

1-1(3)医療支援

本年度は実施していない。

1-1(4)緊急支援

・新型コロナウイルス感染症緊急支援（川内、三木）

◆連携団体：香川県子どもの未来応援ネットワーク

◆支援額：20 万円

新型コロナウイルスにより影響を受けた貧しい子ども達のためにバザーを実施、寄附金を募り、香川県内の子ども食堂の運営団体（10 団体）に食材購入費の支援を行った。また、子ども食堂応援チャリティバザーに来られた運営団体には、提供品のマスク等を配布した。



◆連携団体：ホームランド（現地 NGO）

◆約 33 万円 （2022 年 8 月約 19 万円、2023 年 2 月約 14 万円）

また、現地 NGO ホームランドが支援を行う貧困家庭の子どもたちへの食料支援として、約 30 家庭に米や調味料などの支援を行った。



1-2 支援先視察・交流事業

1-2(1)事業調整者による現地視察（川内）

新型コロナウイルスのため、本年は実施していない。支援先とは、インターネットを通し、定期的に連絡を取り合い、状況確認を行った。

1-2（2）支援者と支援先関係者との交流（川内）

新型コロナウイルスのため、現地渡航はできなかったが、手紙を通じた交流の機会を設けた。フォスターペアレント、スカラーペアレント、スタディサポートペアレントより、里子への手紙を募集し、メールで現地に送った。



1-3 人材育成事業（川内）

1-3(1)セカンドハンド・ユースのサポート

香川県内で、社会を良くするために何かしたいと活動する学生たちに、活動の場の提供や活動のサポート等を行っている。

※セカンドハンド・ユースの活動内容は、「2.関連する団体」を参照

1-3(2)ボランティア体験・インターン受入（三木）

イベント・ボランティア情報を送付する学校を増やし、昨年度に比べ、より多くの学校から参加があった。

【主な参加校】

香川大学、高松東高校、高松西高校、高松南高校、桜井高校、高松商業高校、三木高校、香川中央高校、善通寺第一高校、坂出高校、香川誠陵高校、香川大学附属高松小学校 等

1-4 視察・調査受入事業（三木）

国際交流基金佐藤理事が、「地球市民賞」への応募を呼び掛けるため来県、同賞の前身である「地域交流賞」を受賞したセカンドハンドに来訪。「香川まるがめ子どもにほんごひろば」の安藤会長を交えて地域の多文化共生の促進について話し合った。

1-5 講演・講座事業

1-5(1)香川大学国際協力論

本年度は、実施していない。

1-5(2)国際協力論合宿

本年度は、実施していない。

1-5(3)講演会開催

本年度は、実施していない。

1-5(4)講師派遣（川内）

本年度は計 8 回の講師派遣を行った

《2022 年度の講師派遣先》順不同・敬称略

高松大学、かがわ長寿大学、四国学院大学、高松市立林小学校（3 回）、香川県立高松商業高校、高知県立高知追手前高校



1-6 広報事業

《メディア・新聞掲載》（川内、三木）

2022/8/4 ビジネス香川 It's me セカンドハンド新理事長紹介

2022/10/13 KSB 瀬戸内海放送 ニュースパーク KSB

2022/12/25 KSB 瀬戸内海放送 同上（子ども食堂応援チャリティバザー）

2022/12/26 四国新聞（子ども食堂応援チャリティバザー）

2023/2/1 RNC ラジオ 「さわやかラジオ おはようハイタッチ！」



1-6 (1) キャンペーン (川内)

SNS 等を通じ、当団体の活動をはじめ、国際協力やボランティアの普及・啓発のため情報提供及び情報発信を行った。

1-6 (2) イベント開催 (三木)

広くセカンドハンドについて知ってもらうため、主催バザーやイベント出店を行った。収益は、合計 658,215 円。

《2022 年度主催イベント》三木 売上合計：496,735 円

着物・食器 売上：53,475 円 (5 月 29-30 日)

子ども食堂応援 衣料・食器 売上：51,120 円 (7 月 24-25 日)

貧困児童応援バザー 雑貨・食器 売上：49,610 円 (8 月 28-29 日)

布・はぎれ 売上：120,400 円 (9 月 25-26 日)

女性自立支援 食器・カバン・衣料 売上：55,500 円 (11 月 27-28 日)

子ども食堂応援 本・食器・カバン・ぬいぐるみ 売上：40,950 円 (12 月 25-26 日)

布・着物：82,980 円 (1 月 22-23 日)

子ども食堂応援 食器・衣類：42,700 円 (2 月 26-27 日)



《2022 年度出店イベント》 川内 売上合計:161,480 円
三宅産業展示会 売上 : 38,230 円 (4 月 16 日-17 日)
フェアトレードまつり in かがわ 2022 売上:9,500 円 (5 月 29 日)
かがわ国際フェスタ 2022 売上:19,500 円 (10 月 9 日)
まんで願まつり 売上:19,100 円 (10 月 22 日)
讃岐のイッピン! ええもんフェスタ 2022 売上:14,600 円 (10 月 29 日-30 日)
すなはまフェスティバル 売上:30,000 円 (11 月 3 日)
三宅産業展示会 売上 : 21,400 円 (11 月 4 日-6 日)
四国 ESD まつり 売上 : 9,150 円 (3 月 21 日)



《その他のイベント》

2022 年 9 月 善通寺第一高校

2022 年 10 月 高松商業高校



1-6 (3) セカンドハンド通信発行 (川内)

支援先の現状や国内での取り組みを中心に、国際協力やボランティアの普及・啓発のための情報提供など、広くセカンドハンドに関心を持ってもらうための内容を工夫した。

■ 2022 年 4 月発行 Sambot Vol.108

内容 : SDG s

■ 2022 年 7 月発行 Sambot Vol.109

内容 : 新理事長就任、ユースと現地学生との交流

■ 2022 年 10 月発行 Sambot Vol.110

内容 : 学校や企業、団体との連携・協力、里親からの手紙、「かがわ地方創生 SDG s 登録制度」認定

■ 2023 年 1 月発行 Sambot Vol.111

内容 : カンボジア支援先からの現状報告

1-6(4)ホームページ

ホームページを通して、当団体の活動や支援先の状況等の情報を発信している。内容をより充実させるため、最新情報への更新や、活動の様子が伝わる写真の掲載などを行った。

1-7 チャリティショップ定着・3R促進事業（三木）

2020年に始まったCOVID-19の感染拡大に伴う出控えやマインドの冷え込みで2年度にわたって厳しい状況が続いていたが、2022年後半からようやく回復し始めた。売上も、コロナ前の水準に戻りつつある。

	高松店	片原町店	松縄店	3店舗合計
2018年度	2,701,095	8,138,980	1,240,600	12,080,675
2019年度	2,210,140	8,800,275	1,224,090	12,234,505
2020年度	1,808,765	7,423,944	1,518,575	10,751,284
2021年度	1,932,400	6,514,035	1,754,140	10,200,575
2022年度	2,261,600	7,408,830	2,315,740	11,986,170

・高松店

売上は底堅い。ただ、食器や雑貨等の提供品が減少している。
倉庫、事務、お店番ボランティアは徐々に増え、定着してきている。

・片原町店

ようやくインバウンドが再開され、外国人観光客の来客が増えた。様々なお客さんにお店に入ってもらえるよう店内ディスプレイに統一感を出す工夫をし、ディスプレイマニュアルも作成した。
お店番ボランティアの確保に苦労している。

・松縄店

SNSの活用を通じて、幅広い世代へのアプローチを試みた。店舗表のウインドウディスプレイについて、商品を頻繁に変更したり、季節商品で目を引く工夫をしたりするなど、新規の方にとって入りやすい空間づくりにご協力頂いた。新規来店者、ボランティア共に徐々に増加している。

1-8 チャリティーイベント開催事業

本年度は実施していない。

2.法人の管理運営に関わる事項

■ボランティア等（川内）

・2022年度ボランティア延べ人数＆提供者数

	ボランティア数					合計（人）	提供者数			合計（人）
	高松店 2階含む	片原町店	松縄店 2階含む	運搬	事務		高松店	松縄店	郵送	
2022年度合計	697	781	877	180	67	2,602	1,487	903	289	2,679
2021年度合計	570	702	478	120	90	1,960	1,557	827	258	2,642
2020年度合計	586	778	406	151	45	1,966	1,755	865	330	2,950
2019年度合計	650	968	244	153	23	2,038	1,563	617	309	2,489

■総会・理事会の開催

2022年6月5日 総会

2022年5月15日、2023年2月23日 理事会

3.関連する団体

■セカンドハンド・ユース（川内）

2022年度は、募金活動とイベント開催で約25万円を集め、貧困のため学校に通えない学生3名の奨学金支援を行った。

2023年1月6日に国際理解イベントを開催した。

■セカンドハンド北海道（三木）

イベント出店の収益金寄付などを通じてサポート



■セカンドハンド関東（三木）

イベント出店の収益金寄付などを通じてサポート

■セカンドハンド駒ケ根（三木）

学校での講演やイベント出店などでセカンドハンドの活動を紹介、クラフト品も販売している。

■セカンドハンド大阪（三木）

事務局への経理面でのアドバイス、決算書や申告書の作成などを行う

■日本チャリティショップネットワーク(JCSN)（三木）

全国のチャリティショップ運営団体で構成された、国内でのさらなる定着を目指したネットワーク団体。オンライン名刺交換会や交流会などを通して、全国のチャリティショップを運営する方々が感じる課題について話し合い、解決策を共に考えることができた。